

# 行政視察報告

## 環境建設委員会

環境建設委員会では、スマートモビリティや自動運転技術など、公共交通における新技術の活用について調査、研究するため、「公共交通における新技術の活用について」を所管事務調査事項としている。人口減少や少子高齢化の進行に伴い、公共交通の維持・確保が課題となる中、自動運転技術に関する取組について調査するため、東京都が青梅市で実施する自動運転実証実験について視察を実施した。

視察地 青梅市（河辺町1丁目、2丁目、3丁目）  
視察期間 令和8年2月16日（月）  
視察事項 公共交通における新技術の活用について  
参加者 （委員長）寺島 和成 （副委員長）山田 敏夫  
（委員）ぬのや 和代、藤野 ひろえ、山崎 善信  
長谷川 真弓、島崎 実、山内 公美子  
（随 行…小林議事係長）

## 1 事業の概要について

本事業は、東京都都市整備局都市基盤部モビリティ政策課が実施主体となり、青梅市の協力のもと実施されている自動運転実証実験であり、運行事業者は株式会社エクセイド、委託事業者は大日本ダイヤコンサルタント株式会社である。

実証実験の期間は、令和8年2月17日（火）から2月26日（木）までの10日であり、東京都では、自動運転技術を活用した都市づくりを推進しており、本実証はその一環として実施されている。

## 2 事業の背景及び目的

河辺駅南口周辺地域（河辺町1～3丁目地区）では、買物や通院等の日常的な移動支援を目的とした新たな公共交通の導入が計画されている。

人口減少や高齢化の進行により、地域における持続可能な交通手段の確保が課題となる中、自動運転車両を活用することで、将来的な社会実装に向けた課題の検証及び対策の検討を行うことを目的としている。

### 3 実証実験の内容について

実証実験は、「グリーンスローモビリティ」を使用した自動運転レベル2（運転手搭乗型）により実施され、運行ルートは、青梅市が昨年度実施したグリーンスローモビリティ実証運行のルートとし、実際の地域生活圏内での運行を通じて検証が行われる。



実証実験車両と環境建設委員

#### 【視察を終えて】

本実証実験の開始に先立ち、当委員会の行政視察を受け入れていただいた関係各位に対し、感謝申し上げます。

今回の視察を通じ、東京都における自動運転実証実験は将来的な社会実装を見据えた段階的な取組として進められていることが確認できた。一方で、実際に走行状況を確認する中で、自動運転技術が実用化に向けてなお多くの課題を抱えていることも認識した。

人口減少や少子高齢化の進行に伴い、公共交通分野におけるドライバー不足は今後一層深刻化することが懸念されており、自動運転技術はその対応策の一つとして期待されるものである。しかしながら、今回の実証においては、安全確保の観点から停止回数が多くなる場面も見受けられ、また、見通しの悪い箇所や駐停車車両を避ける際等に手動運転へ切り替える必要が生じるなど、円滑な自動運転に向けた課題が確認され、車両が低速での走行となることから、交通の流れに乗った運行には不向きな面も見受けられた。

これらの状況から、自動運転の社会実装に向けては、安全性のさらなる向上、走行の円滑性の確保、地域特性に応じた運用方法の検討など、解決すべき課題が多いことが確

認できた。

また、本市においては既存バス路線との共存のあり方が重要な課題となるとともに、運行管理や利用促進に向けたデジタル技術の導入等も含めた総合的な検討が必要であると感じた。

本市においても、公共交通の維持・確保は重要な行政課題であり、新技術の導入については期待と課題の双方を十分に整理した上で慎重に検討する必要がある。今回の視察で得られた知見を踏まえ、所管事務調査事項である「公共交通における新技術の活用について」の調査・研究を深めるとともに、本市における導入の可能性や課題について、引き続き調査を進めていく必要があると考える。

(環境建設委員長 寺島 和成)